

iStorage NS100Tm(Wasabi) ご使用時の注意事項

この度は弊社製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

本製品のご使用において、ご注意くださいことがございます。

誠に您所入りますが、ご使用前に下記内容を必ずご一読いただきますようお願いいたします。

なお、本書は必要なときにすぐに参照できるよう大切に保管してください。

● 本製品の各種マニュアルの入手方法について

本製品のユーザーズガイド、メンテナンスガイド、インストレーションガイド、BMC 管理コンソールユーザーズガイドなどの各種マニュアルはEXPRESSBUILDER内に格納、または装置添付されています。なお、最新版のマニュアルは下記に掲載されておりますのでご参照ください。

<https://www.support.nec.co.jp/TopHWGuidanceContents.aspx>

→「ハードウェア」の「型番・モデル名から探す」を選択

→モデル名 (NS100Tm) を記入し「モデル名で検索」を選択

→検索結果からモデル名を選択

→「製品マニュアル」を選択

→該当モデルのユーザーズガイドを選択

● iStorage NS100Tm (Wasabi) 読替え表

本製品のユーザーズガイド／メンテナンスガイドにおいて、下記に示しますように読替えをお願いいたします。

本製品の型番	ユーザーズガイド／メンテナンスガイドに記載の型番
NF8100-305Y	NF8100-295Y

・NF8100-295Y と NF8100-305Y とでは以下の差があります。

〔搭載 OS について：ユーザーズガイド 8 ページ他〕

NF8100-305Y	NF8100-295Y
Windows Server IoT 2022 for Storage Standard Edition	Windows Server IoT 2022 for Storage Workgroup Edition

〔搭載 CPU について：ユーザーズガイド 24 ページ他〕

NF8100-305Y	NF8100-295Y
インテル Xeon E-2414 プロセッサ (2.6GHz 4Core)	インテル Pentium Gold G7400 プロセッサ (3.7GHz 2Core)

〔搭載メモリについて：ユーザーズガイド 123 ページ〕

製品型名		NF8100-305Y	NF8100-295Y
メモリ	標準	16GB (16GBx2枚)*1	16GB (16GBx1枚)*1

〔標準ドライブ容量について：ユーザーズガイド123ページ〕

	NF8100-305Y	NF8100-295Y
標準ドライブ容量 (ディスクの管理画面で表示される容量)	C: 約150GB D: 1713.23GB	C: 約150GB D: 1024.00GB E: 689.23GB

本項目以外の記載内容は、NF8100-295Yと同じです。

● Wasabi Cloud NAS について

本製品には、Wasabi Cloud NAS 用のソフトウェアが付属しています。Wasabi Cloud NAS の構築/運用方法など、Wasabi Cloud NAS に関する情報は、NEC サポートポータルで公開している以下のコンテンツをご参照ください。



CBZ-062978-004-01

タイトル：【iStorage NS専用 Wasabi ライセンス】 Wasabi Cloud NAS について

URL：<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=3140109727>

(本コンテンツを表示するためには、「iStorage NS専用 Wasabiライセンス」のご契約を含むユーザーIDでログインしてください。)

- 「NIAS（機能制限ライセンス）簡易設定ガイド」に記載しているDドライブの容量について
製品添付の「NIAS（機能制限ライセンス）簡易設定ガイド」(※)の[1.1 概要]に、Dドライブの容量が1TBである旨を記載しておりますが、本製品の出荷時状態における実際のDドライブの容量は、1TBではなく、約1.6TBとなっております。このDドライブの容量差による問題は発生しません。運用にあたって特別な対応は不要です。

※「NIAS（機能制限ライセンス）簡易設定ガイド」は、製品添付のEXPRESSBUILDERの媒体に格納しております。

- 最新のESMPRO/ServerManagerの入手方法について

以下のNECサポートポータルサイトからダウンロードしてください。

- ・ ESMPRO/ServerManager Ver. 7

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=9010110069>

インストール後、ESMPRO/ServerManagerセットアップガイドを参照して必要な設定を行ってください。なお、ESMPRO/ServerManagerのアクセス方式がRedfishの場合は、ESMPRO/ServerManagerのリモートコンソール機能、およびコンソールログ設定を利用できません。

- 最新の装置情報収集ユーティリティの入手方法について

障害解析に必要な情報を採取できるようにするために、装置情報収集ユーティリティを最新版へアップデートしてください。装置情報収集ユーティリティは、障害発生時にOS上からシステムイベントログ(SEL)などを採取するツールであり、障害解析に必要です。最新版へアップデートしない場合は障害発生時に必要な情報が採取できない場合があります。

[装置情報収集ユーティリティの最新バージョンおよび、ダウンロード先]

<https://www.support.nec.co.jp/GuidanceCategoryProductSearch.aspx>

その他 > 装置情報収集ユーティリティ

- ・ 装置情報収集ユーティリティ (Windows版 Ver 3. x. x)

- 低温環境での運用について

本製品には、環境温度の低温異常を検出した際に、ESMPRO/ServerAgentServiceがOSを自動的にシャットダウンする機能があります。

OSのプリインストール構成で出荷された場合、本機能は無効化されていますが、以下操作により意図せず有効化される場合があります。

1. EXPRESSBUILDERを用いてWindowsおよびESMPRO/ServerAgentServiceをインストールした場合。
2. Webに公開されている最新版のWindows向けESMPRO/ServerAgentServiceをインストール/アップデートインストールした場合。

低温異常を検出した際に自動的にシャットダウンを行う必要がない場合、以下URLに公開されている設定変更パッチを適用してください

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=9010107685>

- BMC設定の初期化について

- ・ オフラインツールメニューの[BMC] - [Configuration Initialization]でBMC設定を初期化する場合は、初期化した後、他の設定は行わず、オフラインツールを終了してください。オフラインツールを終了することでシステムが再起動されます。システム再起動後にオフラインツールを起動しBMC設定内容を再設定してください。

- ・ BMC管理コンソールの[メンテナンス] - [工場出荷時デフォルトのリストア]でBMC設定を初期化する場合は、初期化した後、システムを再起動してください。システム再起動後にオフラインツールを起動しBMC設定内容を再設定してください。

- **BMC管理コンソールで表示される電圧値について**

本製品がアイドル状態の時、BMC管理コンソール上でセンサ「P_VCC_CPU」の値が0になる場合がありますが、これは正常な値です。

- **BIOS SETUPのDMA Control Guaranteeメニューについて**

BIOS SETUPの[Advanced] - [System Agent(SA) Configuration] - DMA Control Guarantee からカーネル DMA 保護機能を“Enabled(有効)”、または“Disabled(無効)”に設定できます。

「カーネルDMA保護機能」については以下をご参照ください。

<https://learn.microsoft.com/en-us/windows/security/information-protection/kernel-dma-protection-for-thunderbolt>

- ・ 本設定は“Enabled”（default設定）のままでご使用ください。

OSを新たにインストールする場合は、本設定が“Enabled”であることを確認してからインストールを行ってください。

- ・ 運用中に下記のMicrosoftの情報に記載されている問題が発生する可能性があります。

該当する問題が発生した場合は、本設定を“Disabled”に変更してください。

<https://learn.microsoft.com/en-us/troubleshoot/windows-server/performance/stop-code-driver-verifier-dma-violation>

※本設定を“Disabled”に変更しても改善されない場合は、BIOS SETUPの[Advanced] - [System Agent(SA) Configuration] -VT-dを“Disabled(無効)”に変更してください。

- **BMCファームウェアのリモートメディア機能にて、ファイル共有サーバー上のイメージファイルを仮想メディアとして使用時にWindowsの「ディスクの管理」で同一のボリュームが2つ表示される場合について**

BMC管理コンソールのメディアリダイレクション設定で、ファイル共有サーバー上の仮想イメージファイルを読み込ませてホストのWindows OSに認識させると、「ディスクの管理」ツールで同一のボリュームが2つ表示される場合があります。本問題は、表示だけの問題であり、現象が発生した際には、画面の操作タブから「最新の情報に更新(F)」を実施すると正常に表示されるようになります。

- **N8103-235 RAIDコントローラにて、Starter Packでドライバー適用後の再起動にて「シャットダウンしています」の表示が数十分続く場合について**

N8103-235 RAIDコントローラ(2GB RAID0/1)にWindows Server IoT 2022を新規インストール後、Starter Packからドライバーを適用し、再起動を行うと「サービスをシャットダウンしています: Windows Modules Installer。」という画面表示がしばらく切り替わらない現象が発生する場合があります。この現象が発生しても処理は停止していないため、そのままお待ちください。60分以上待っても画面が切り替わらない場合は、巻末の「ファーストコンタクトセンター」まで連絡してください。

- **BMCのShared LAN機能について**

Shared LAN機能を使用する場合は、必ず以下の手順に従って設定を行ってください：

LAN1ポートをネットワークに接続します。

オフラインツールメニュー（Server Configuration Utility）を開きます。

[BMC] - [Configuration] - [Network] - [Management LAN]の順に選択します。

[Management LAN]の設定をShared LANに変更します。

設定後、60秒待ってからBMCリセットを実施してください。

- **BMC管理コンソールでの仮想KVMビューアの使用について**

BMC管理コンソールで仮想KVMビューア使用時に管理PCでWindowsキーを入力した場合に正しく動作しない場合があります。Windowsキーを使用する場合は、仮想KVMビューアの「Send Keys」メニューから「Right Windows Key」または「Left Windows Key」を選択してください。

- **BMC管理コンソールでの設定バックアップ/リストアの使用について**

- ・ 設定のバックアップ:

- BMC管理コンソールで「設定のバックアップ」を行う際、『認証』にはチェックを入れないでください。「外部ユーザー設定」、「PAMオーダー設定」、「ユーザー管理」で設定を変更している場合は、その設定内容を記録し保管してください。

- ・ 設定のリストア:

- 必要に応じて「設定のリストア」を行った後、記録した内容を参照して「外部ユーザー設定」、「PAMオーダー設定」、「ユーザー管理」の再設定を行ってください。

- ・ その他の設定項目:

- 上記以外で「設定のバックアップ」の対象外となっている設定項目については、最新版のBMC管理コンソールユーザズガイドの「5. リモート管理コンソールの使い方」の「設定のバックアップ/リストア」をご参照いただき、必要に応じて設定内容の記録と再設定を行ってください。

- ・ ユーザズガイドの入手方法:

- 最新版のBMC管理コンソールユーザズガイドの入手方法は、本書の冒頭に記載している「本製品の各種マニュアルの入手方法について」をご参照ください。

- **BMC管理コンソールでのシステムインベントリにて表示されるL1キャッシュについて**

BMC管理コンソールのシステムインベントリにてプロセッサ情報のL1キャッシュは、命令キャッシュのサイズを示しています。L1データキャッシュのサイズを確認するには、以下の手順に従ってください:

- ・ BIOSセットアップユーティリティ (SETUP) を開きます。

- ・ [Advanced] - [CPU Configuration]の順に選択します。

- ・ L1 Data Cacheの項目でサイズを確認します。

なお、OSのタスクマネージャーでのL1キャッシュは、命令キャッシュとデータキャッシュの合計サイズが表示されます。

- **「ネットワーク インターフェイス “(デバイス名)” はリセットを開始しました。」というWindows ログについて**

OSが高負荷状態時、Windowsログに、「ネットワーク インターフェイス “(デバイス名)” はリセットを開始しました。」という警告のイベント(ソース:NDIS、ID:10400)が登録されることがあります。

- ・ デバイス名が、“AMI Remote NDIS6 based Device”の場合:

- BMC ファームウェアのアップデートに使用するAMI Remote NDIS6 based Deviceが一時的に使用できなかったことを示しますが、自動的に復旧しているため運用には支障ありません。

- ・ デバイス名がオンボードLAN(Intel(R) I210 Gigabit Network Connection)、または、LANカードの場合:

- ネットワーク接続が一時的に中断し、通信に失敗している可能性があります。自動的に復旧しているため運用には支障ありません。頻発する場合は、高負荷状態を発生させているアプリケーションの観点で調査し、OSの負荷軽減を実施してください

- **オンボードRAID コントローラー (SW-RAID) 使用時の注意事項について**

オンボードのRAID コントローラー構成かつ、SATA 光ディスクドライブ接続構成において、以下の操作を行った場合、システムのイベントログにソース:iastorE、ID:4155の警告メッセージが登録されますが、システム動作上の影響はありません。運用にあたって特別な対応は不要です。

警告メッセージが登録される操作:

- 光ディスクの取り出し

- CD-RまたはCD-RWのブランクメディアへのアクセス

- CD-RW 媒体の消去

● Windows OS サーバーマネージャー上の赤い警告表示について

本製品の出荷時状態で、OS起動後にサーバーマネージャーを表示すると、サービスに関する警告が赤色で表示されます。警告の内容が、edgeupdateサービスに関するものである場合、動作上の影響はありません。運用にあたって特別な対応は不要です。

本警告の詳細については、下記URLのマイクロソフト社の情報を参照してください。

Windows Server 2022 において、サーバーマネージャー上に edgeupdate サービスに関する警告が表示される

<https://jpwinsup.github.io/blog/2021/09/29/UserInterfaceAndApps/SrvMngWithEdge/>
(2024/7/1現在)

● iStorage NS100Tm ユーザーズガイドの読み替えについて

iStorage NS100Tmのユーザーズガイドに記載の以下の部分を読み替えてください。

1章 概要→5.5.2 STATUSランプ1,2

＜ユーザーズガイドの記載＞

STATUS ランプ 1, 2 の状態		意 味	対処方法
STATUS ランプ 1	STATUS ランプ 2		
消灯	アンバー色に点滅	いずれかのハードディスクドライブの故障を検出しました。(2.5型 HDD ケージ搭載で、RAID 構築にしている場合)	保守サービス会社に連絡してください

＜読み替え＞

STATUS ランプ 1, 2 の状態		意 味	対処方法
STATUS ランプ 1	STATUS ランプ 2		
消灯	アンバー色に点滅	(本装置ではディスクドライブの故障検知は STATUSランプで表示されません。ディスクドライブ故障については下記等でご確認下さい。 RAIDカード : Universal RAID Utility SW RAID : Intel(R) Virtual RAID on CPU ユーティリティ)	保守サービス会社に連絡してください

1章 概要→5.5.3 Global HDDランプ1,2

＜ユーザーズガイドの記載＞

Global HDDランプ1,2の状態		構成	意味
Global HDDランプ1	Global HDDランプ2		
消灯	アンバー色に点灯	・ オプションのRAIDコントローラーを使用しRAID構成にしている場合(RAIDコントローラーにより点灯しない場合があります) ・ SW RAIDを使用し2.5型HDDケージでRAID構成にしている場合 3.5型HDDケージでオプションのRAIDコントローラーを使用している場合	ハードディスクドライブが故障しています。 電源ON直後、またはリセット直後に数秒間点灯する場合がありますが、これは通常の動作です。
緑色に点滅	アンバー色に点滅	・ オプションのRAIDコントローラーを使用しRAID構成にしている場合(RAIDコントローラーにより点滅しない場合があります) ・ SW RAIDを使用し2.5型HDDケージでRAID構成にしている場合	リビルド中です。

＜読み替え＞

Global HDDランプ1,2の状態		構成	意味
Global HDDランプ1	Global HDDランプ2		
消灯	アンバー色に点灯	・ オプションのRAIDコントローラーを使用しRAID構成にしている場合	ハードディスクドライブが故障しています。 電源ON直後、またはリセット直後に数秒間点灯する場合がありますが、これは通常の動作です。
緑色に点灯／点滅	アンバー色に点滅	・ オプションのRAIDコントローラーを使用しRAID構成にしている場合	リビルド中です。
緑色に点灯／点滅	アンバー色に点滅	・ 2.5型HDDケージでSW RAIDを使用しRAID構成にしている場合(3.5型HDDケージ構成は除く)	リビルド中または初期化/検証 動作中です

*****【ご注意】*****

以下の注意事項は、本体装置のBIOSファームウェアおよびBMCファームウェアにより対象が異なります。ご使用の本体装置のファームウェアはBIOSセットアップユーティリティで確認できます。詳細はメンテナンスガイドを参照してください。

1. BMCファームウェアのリビジョン 01.00が適用された本体装置の注意事項

- Windows Server IoT 2022の起動後、Windows OSのデバイスマネージャーにてHID準拠マウスデバイスに「！」が表示される場合について

本現象が発生した場合、BMC管理コンソールで仮想KVMビューアを使用する際に、リモートからのマウス入力が動作しなくなります。この現象を解消するため、以下の手順を実施してください。

1. 次のいずれかの方法でBMC RESETを実行してください。
 - ・ 本体装置のBMC RESETスイッチを押します。
 - ・ BMC管理コンソールから「メンテナンス」-「システム操作」-「BMCリセット」を選択します。

2. BMCリセットが完了した後、仮想KVMビューアの再接続を行います。

BMCリセットが完了したことを確認するには、まずステータスランプ1と2が両方点灯し、その後ステータスランプ1のみが点灯していることを確認してください。Statusランプの詳細については、本製品のユーザーズガイドをご参照ください。

- Windows Server IoT 2022の起動後、Windows OSのデバイスマネージャーにてVirtual Mouse Gadgetに「HIDキーボードデバイス」が表示される場合について

(「表示(V)」にて「デバイス(コンテナ別)(C)」を選択時)

本現象が発生した場合、BMC管理コンソールで仮想KVMビューアを使用する際に、リモートからのマウス入力が動作しなくなります。この現象を解消するため、以下の手順を実施してください。

1. デバイスマネージャーを開き、Virtual Mouse Gadgetの「HIDキーボードデバイス」を選択します。
2. 右クリックして「デバイスのアンインストール(U)」を選択します。
3. 「操作(A)」メニューから「ハードウェア変更のスキャン(A)」を選択します。

現象が解消するまで同じ手順を繰り返し実施してください。

2. BIOSファームウェアのバージョン F04が適用された本体装置の注意事項

- システムイベントログ(SEL)に登録される「ファームウェア例外」について

以下のログがシステムイベントログ(SEL)に登録される場合があります。

イベントジェネレータ：16h

イベント内容：その他 発生

マネージメントエンジンの状態変化を検出した

イベント詳細：ファームウェア例外

通報サービスでは、上記のログにより以下の内容が通報されます。

ファームウェア例外を検出しました。

拡張エラーコード：0x01

センサ番号：17h

位置：Management Controller Firmware 0

本イベントは誤った検出であるため、動作上の影響はありません。運用にあたって特別な対応は不要です。

■本件に関するお問い合わせについて

本書の内容に不明点がありました場合は、下記ファーストコンタクトセンターまでお問い合わせください。

お問い合わせ先：ファーストコンタクトセンター

T E L : 0120-5800-72

受付時間 : 9:00~12:00 13:00~17:00 月曜日~金曜日(祝日を除く)

※番号をお間違えにならないようお確かめのうえお問い合わせください。

